

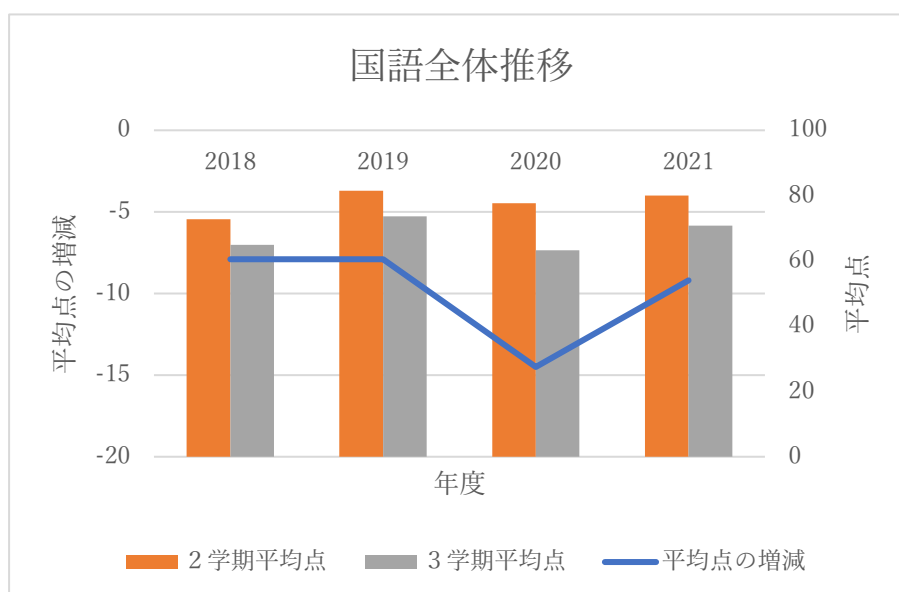
## 読解力分析結果 基礎力診断テスト分析

数学科 武井 文音

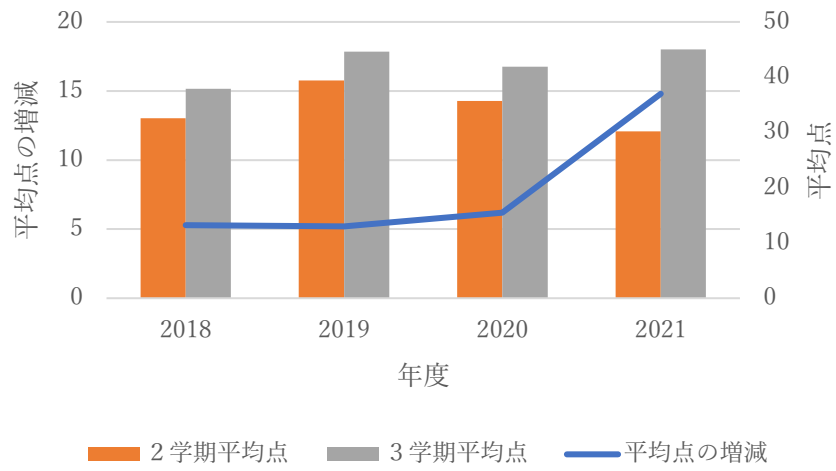
今年度、研究部は、読解力向上を目的の一つとして発足した。1年間の生徒の読解力に変化があったかどうか、Benesseの基礎力診断の得点の変動を分析した。研究部の教員が授業を担当している1学年を対象に、基礎力診断の問題において思考力・判断力を図る問題を読解力を図る問題と読み替えて分析している。

以下のグラフは2018年度から2021年度の3教科の読解力を図る問題において、2学期と3学期の平均点の差をグラフにしたものである。国語と数学において昨年度から今年度にかけて大幅な上昇がみられた。この結果から研究部の取り組みにより効果が出たのではないかと考えられるが、次年度以降も慎重に傾向を分析していく必要がある。

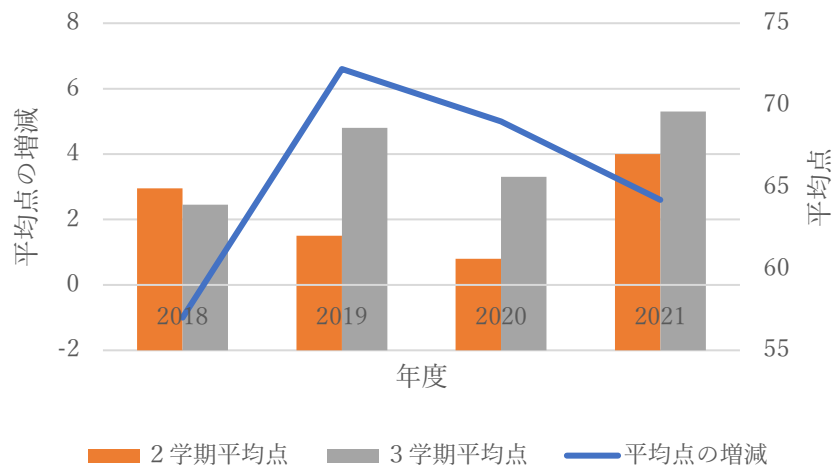
私が担当している数学に関しては、今年度は読解力向上を目標とした授業を行うだけでなく、生徒の学び合いの時間や問題演習の時間を意識して取り入れることや、生徒一人ひとりとのコミュニケーションを大切に前向きな声掛けを行うこと、定期考査前の補習などに積極的に取り組んだ。以上のような要因による相乗効果であると考えている。



### 数学全体推移

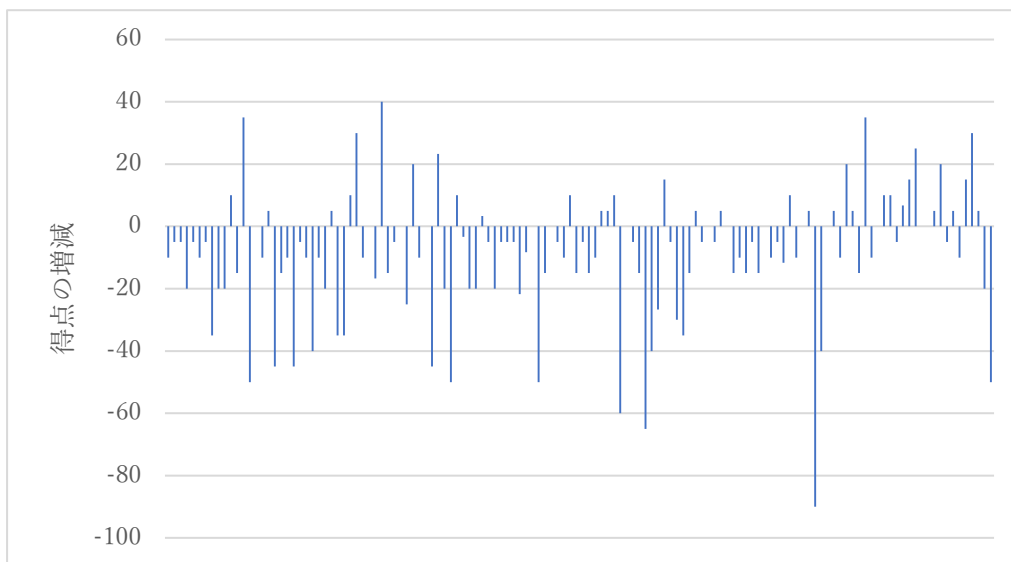


### 英語全体推移



また、生徒個人の2学期から3学期の得点率の変化に着目した。以下のグラフのように、それぞれの年度における、2学期から3学期の読解力を図る問題の得点率の増減について、教科ごとにグラフを作成した。縦軸が得点の増減を示している。横軸は生徒個人を表している。個人の得点の増減については例年通りで大きな変化はみられなかった。

※個人情報保護の観点から年度、科目等の情報は除いた。



今回の分析結果においては、今年度の生徒の明確な読解力向上は示されなかった。しかし我々教員の授業は、生徒の読解力向上を意識したものに変容しており、次年度以降も引き続き研究部の活動を続けていくことで生徒の読解力向上を期待している。また、今年度は Benesse の基礎力診断を用いて分析したが、より読解力向上を図ることのできるツールを模索していく。